

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高2 総合進学 〔文系〕	数学	数学B	数学B Standard (東京書籍)	WIDE 数学B (東京書籍)

1. 授業のねらい

- ① 数学的活動を通して、各単元の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する態度を養います。【関心・意欲・態度】
- ② 数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考えるようにします。【数学的な見方や考え方】
- ③ 数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決するようにします。【数学的な技能】
- ④ 数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けさせます。【知識・理解】

2. 授業のすすめ方

- ① 授業は基本的に教科書の内容を中心に展開します。学習の基本となる授業を大切に、常に意欲を持って取り組むようにしましょう。
- ② 演習の時間は問題を繰り返し解き、教え合いながら学習内容を定着させましょう。

3. 学習上の留意点

- ① 予習をすると授業内容の理解がスムーズになります。Classiの学習動画やスタディサプリの講義動画を視聴して、どんな内容を学習するかを事前に知ることによって授業の理解度があがります。
- ② 演習の時間はまず自分ひとりで問題に取り組み、何がわかっていて何がわからないかを考えましょう。
- ③ 自分がわからないことを相手に伝えたり、わかっていることを相手に教えたりすることによって学習が進みます。能動的に取り組みましょう。
- ④ 授業の後は、計画的に問題集に取り組み、学習内容を定着させましょう。ヒントなしで解ける問題がひとつでも増えることを意識してください。
- ⑤ 学習内容の定着を確認するために、7. 授業計画の「到達目標」が達成されているか確認しましょう。

4. 副教材・参考文献

- ① 副教材：WIDE 数学B（東京書籍）
- ② 参考書：特に指定しませんが、必要であれば自分にあつた参考書を購入し活用してください。

5. 評価方法

- ① 定期考査：100点満点の試験を年5回実施します。
- ② 平常点：1・2学期はそれぞれ20点、3学期は10点です。
授業（グループワークの取り組みも含む ただし実施可能であった場合）に対する関心・意欲・態度など平常の学習態度と、課題の提出、動画の視聴、小テストなどで総合的に評価します。

6. 定期考査

- ① 内容：教科書、授業内容、副教材を中心に、基本的な内容を問う問題を中心に出題します。
 - ② 各定期考査の範囲
 - ・ 1学期中間考査：1章1節 数列
 - ・ 1学期期末考査：1章2節 いろいろな数列、3節 漸化式と数学的帰納法
 - ・ 2学期中間考査：2章1節 平面上のベクトル
 - ・ 2学期期末考査：2章2節 ベクトルの応用
 - ・ 3学期期末考査：2章3節 空間におけるベクトル
- ※進捗状況により変更になる場合があります。
※正式な各定期考査の範囲は、考査の1週間前頃に担当者より発表します。

7. 授業計画

	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	1章 数列 1節 数列 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業 課題提出 小テスト など <p>定着を確認するために右記「到達目標」を活用してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 等差数列について関心を深め、一般項 a_n を初項 a、公差 d を使って表せることを理解する。 等差数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 等比数列について関心を深め、一般項 a_n を初項 a、公比 r を使って表せることを理解する。 等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 記号 Σ の意味と性質を理解し、自然数の累乗の和を Σ を用いて表すことができる。 階差数列から一般項を求めたり、数列の和から一般項を求めたりすることができる。 群数列などの少し複雑な数列の一般項や和を求めることができる。 数列の帰納的定義について理解し、漸化式を扱うことができる。 数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。
	5	2節 いろいろな数列 1 数列の和と記号 Σ 2 階差数列と数列の和 3 いろいろな数列		
	6	3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法		
二学期	9	2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 1 有向線分とベクトル 2 ベクトルの加法・減法 ・実数倍	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業 課題提出 小テスト など <p>定着を確認するために右記「到達目標」を活用してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルの考えを理解し、ベクトルに関する基本的な用語・記号に習熟する。 ベクトルの加法・減法および実数倍について理解し、それらの演算について数の演算と同様の法則が成り立つことを確かめる。また、ベクトルの平行・分解について理解する。 平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、そのよさを認識する。 ベクトルの内積について理解し、その基本性質を理解する。 位置ベクトルを理解し、平面上の点の位置を表現できるよさを認識する。 ベクトルの考えを利用して、平面図形に関するいろいろな問題を考察することができる。 平面上の直線や円を、ベクトルを用いて表せることを理解する。また、媒介変数表示についても理解し、そのよさを認識する。
	10	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積		
	11	2節 ベクトルの応用 1 位置ベクトル 2 ベクトルの図形への応用 3 ベクトル方程式		
三学期	1	3節 空間におけるベクトル 1 空間座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの内積 4 位置ベクトルと空間の図形	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業 課題提出 小テスト など <p>定着を確認するために右記「到達目標」を活用してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空間における座標を定め、空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する。また、座標平面に平行な平面について考察する。 平面と同様に、空間においてもベクトルを考慮することができることを理解する。 空間のベクトルについても内積を定義し、いろいろな図形の問題に応用できる。 平面と同様に、空間においても位置ベクトルを考慮することができることを理解し、内分点・外分点の位置ベクトルを求めることができる。また、位置ベクトルのよさを空間図形に応用できる。